

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後七十五年 (五十)

第二章 戦後世界のうねり・植民地時代の終焉とブロック化する世界 (十二)

五十 離合集散を繰り返すアラブ世界 (三―三)



しかしアラブ連合共和国もアラブ連邦も長続きしなかった。アラブ連邦は結成のわずか2か月後にイラクで軍事クーデタが発生、王家一族は全員殺され、イラク・ヨルダン・アラブ連邦はあっけなく崩壊したのである。アラブ連合の場合はナセルが強引に一体化を押し進めようとしたことにシリアの軍部が反発、三年後の1961年九月に陸軍将校団によるクーデタが発生、エジプトとの連合を解消した。

その後バース党政権のシリアとイラクが急速に接近1963年にはイラク・シリア連邦が形成された。両国を含む地中海東海岸地方はレバント地方と呼ばれオスマン・トルコの時代から一つの地域と見なされていた。しかし第一次大戦中の英国とフランスによる領土分割秘密協定「サイクス・ピコ協定」によりシリアはフランスに、イラクは英国に分割された経緯がある。従って汎アラブ主義を綱領とするバース党が政権を握れば両国の友好関係が深まるのは当然の成り行きであった。余談であるがつい最近までこの地域で猛威を振るっている「イスラム国」の別名は「ISIL(イラクとレバントのイスラム国)」であり、このことはイスラム国がシリア及びイラク北部を一体とみなしていることを示しているのである。

(続々)

荒葉 一也

E-mail: [Arehakarazuyal@gmail.com](mailto:Arehakarazuyal@gmail.com)